

伸・魅力通信

「袋井市をかがやくまちにしよう」袋井中3年生の挑戦

11月26日、袋井中学校の3年4・6組で、社会科地方自治の単元「袋井市をかがやくまちにしよう」の授業が行われました。単元の最初に行った「袋井市に将来住みたいですか」というアンケートには、どのクラスも4・5人の生徒しか手が挙がりませんでした。そこで、袋井市における地方自治の実態を学びながら、自分も含めたみんなが住みたいと感じる「魅力ある袋井市にするための提案」を考え、袋井市議会議員とまちづくり協議会の方々にプレゼンをしました。

「ゴミ拾いスタンプラリー —ごみをうっちゃっちゃいかに—」

拾ったゴミに応じてポイントを付けて、食品や袋井市内で使える商品券に交換するイベントを行いたい。スポンサーになってもらったハウス食品や大塚製薬から商品を提供してもらいたい。



「袋井SHOP」

袋井市は、健康文化都市だから、心も体も健康になれる袋井SHOPを作りたい。古民家カフェやお茶石鹸の量り売り、袋井産のお米で作ったコーンフレーク、メロンの皮を器にしたパフェなどを販売したい。

「袋井市を通過点ではなく目的地として輝くまちへ」

袋井市を訪れた人たちが気軽にメロンを食べられるようにしたい。和室の休憩所を作りたい。遠州三山のPRグッズも作って販売したい。





【まちづくり協議会の方々からのアドバイス】

袋井市は米作りをしている方々の高齢化や後継者不足に悩んでいる。お米の消費が増えるようお米をPRできるお菓子作りもしてほしい。商品開発をするなら、西コミュニティセンターのキッチンスタジオを使ってください。

【議員の方々からのアドバイス】

提案を実現するためには、お金が必要で、概算でよいのでどのくらい経費が掛かるのかも一緒に提案できるとより説得力のあるプレゼンになります。

【生徒の感想】

「とても楽しかった。政治やお金のことを具体的に聞くことができたので、次の提案に生かしたい。」「調べてみたら袋井市はとても魅力的なまちだと分かった。私たちができることはたくさんあると思った。」「今回の授業で、袋井市に関わる仕事に就きたいと思うようになった。」

生徒たちは、友達にアンケートを取ってタブレットで集計したりタブレットを持ち帰って家で提案用スライドを作ったりするなど、タブレットを有効に活用して主体的な学びを進めていきました。

今回の授業で、生徒の主体的な学びを引き出し、幼小中一貫教育の生き方部のカリキュラムがねらう「より良い地域を目指して自分たちに何ができるかを考える」を実践することができました。

袋井中生 市政に「企画案」

市議招き提案

道の駅やスタンプラリー

袋井市立袋井中の3年生が26日、同市の魅力や課題、今後の施策について市議会議員らに発表した。社会科の授業の一環で、「袋井市を輝くまちにしよう」をテーマにアイデアを提案した。

生徒は地方自治の仕の解決に向けた取り組みや議員の役割を学び、市が抱える課題「この日は市議やまちづくり協議会のメンバーを招いて道の駅の設置、官民連携によるごみ拾いスタンプラリーの開催といった意見を発表した。市議からの助言を受け、企画案の再検討も行った。

生徒のまちづくりに対する関心を高めようと実施した。アイデアは再度まとめ直し、市や市議会に提案する。

小林瑛大君(15)は「議員さんからのアドバイスはとても勉強になった。僕たちの提案を市政運営に生かしてもらえたらうれしい」と話した。

(袋井支局・仲瀬駿介)



市議のアドバイスを聞く生徒＝袋井市の袋井中